

くすり一口メモ

アルツハイマー型認知症治療薬について

昨年までアルツハイマー型認知症（AD）には、1999年に発売されたドネペジルが唯一使用可能な薬剤となっていました。しかし、2011年に新たな治療薬としてガランタミン、リバスチグミン、メマンチンの3種類が発売となり、治療の選択肢が広がりました。このことで日本も4種類のアルツハイマー型認知症治療薬を使用することができる国際標準状態となりました。また、剤形も錠剤だけでなく、液剤、貼付剤などが加わり患者の病態にあわせて選択ができるようになりました。今回はアルツハイマー型認知症治療薬の特徴についてまとめてみました。

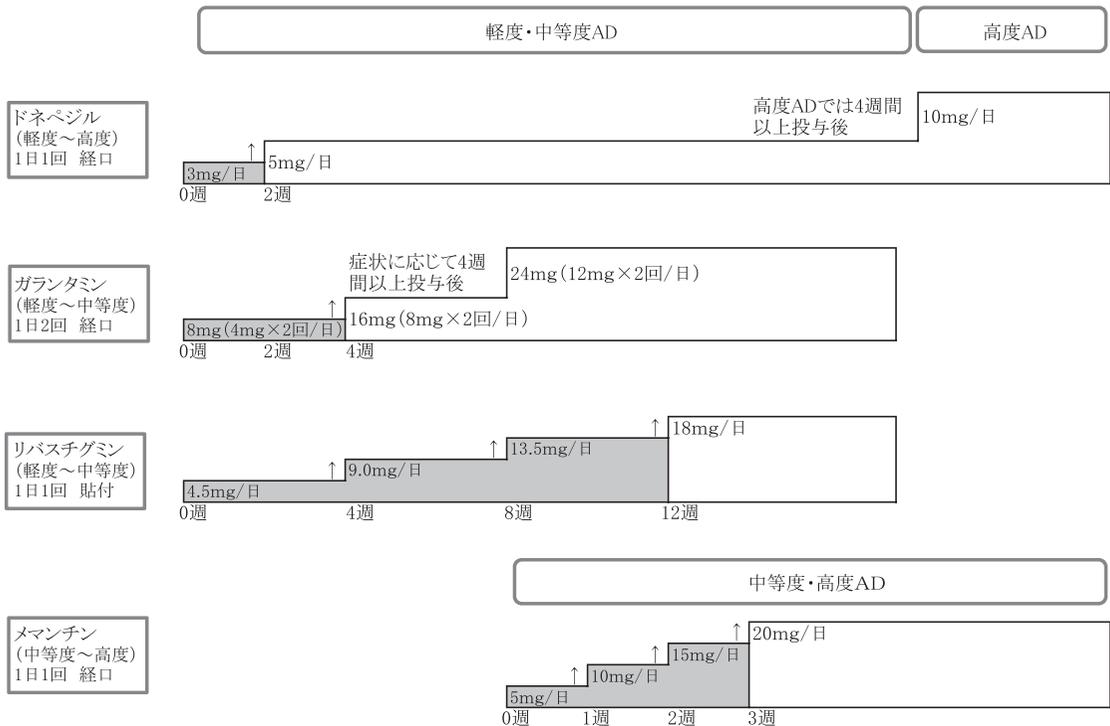


図1 アルツハイマー型認知症治療薬の漸増の仕方

アルツハイマー型認知症治療薬は、症状の程度に応じて選択できる薬剤が決められています。また、使用にあたっては副作用の発現を抑えるために低用量から開始し、徐々に増量していきますが、各薬剤で漸増の期間や用量などが異なっているため注意が必要です。NMDA受容体拮抗薬のメマンチンは、他の薬剤と作用機序が異なることからアセチルコリンエステラーゼ阻害剤との併用が可能となっています。

表1 アルツハイマー型認知症治療薬の特徴

分類	アセチルコリンエステラーゼ阻害剤			NMDA受容体拮抗剤
	商品名	アリスепト	レミニール	
一般名	ドネペジル塩酸塩	ガラントミン臭化水素酸塩	リバスタチグミン	メマンチン塩酸塩
剤形	細粒,錠,D錠,内服ゼリー	錠,OD錠,内溶液	パッチ	錠
薬価	<錠・D錠> 3mg : 238.5, 5mg : 356.0 10mg : 636.0 <細粒> 0.5%1g : 337.1 <ゼリー> 3mg : 233.4, 5mg : 356.0 10mg : 636.0	<錠・OD錠> 4mg : 104.7, 8mg : 187.1 12mg : 237.1 <内溶液> 0.4%1ml : 93.9	<パッチ> 4.5mg : 337.2 9mg : 379.7 13.5mg : 407.0 18mg : 427.5	<錠> 5mg : 133.9 10mg : 239.2 20mg : 427.5
効能・効果	アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制
適応	軽度AD			×
	中等度AD			
	高度AD		×	
用法・用量	1日1回3mgから開始し、1~2週間後に5mgに増量し、経口投与する。高度のアルツハイマー型認知症患者には、5mgで4週間以上経過後、10mgに増量する。	1日8mg（1回4mgを1日2回）から開始し、4週間後に1日16mg（1回8mgを1日2回）に増量し経口投与する。なお、症状に応じて1日24mg（1回12mgを1日2回）まで増量できるが、増量する場合は変更前の用量で4週間以上投与した後に増量する。	1日1回4.5mgから開始し、原則として4週毎に4.5mgずつ増量し、維持量として1日1回18mgを貼付する。本剤は背部、上腕部、胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し、24時間毎に貼り替える。	1日1回5mgから開始し、1週間後に5mgずつ増量し、維持量として1日1回20mgを経口投与する。
服薬上の注意	舌の上ののせて唾液を浸潤させると崩壊するため、水なしで服用可能である。また、水で服用することもできる。寝たままの状態では、水なしで服用させないこと。	悪心、嘔吐や下痢などに対処するために十分に水分を摂取し、脱水症状を予防すること。	貼付剤に認められる皮膚刺激を避けるため毎回貼付場所を変更すること。	投与開始初期において、めまい、傾眠があらわれることがあるので注意をすること。
代謝/排泄	肝代謝	肝代謝	腎排泄	腎排泄
腎障害患者	投与量はGFRに関与せず	記載なし	記載なし	CCr30ml/min未満の維持量は1日1回10mg
肝障害患者	記載なし	中等度の肝障害患者4mg 1日1回から開始し、少なくとも1週間投与した後1日8mg（4mgを1日2回）を4週間以上投与し増量。1日16mgを超えないこと。	記載なし	記載なし
半減期	約60~90時間	約5~7時間	約3.4時間	約55~70時間
総副作用発現率	軽度及び中等度：総症例457例中48例(10.5%) 高度：総症例386例中171例(44.3%)	744例中431例(57.9%)	858例中720例(83.9%)	1,115例中408例(36.6%)
主な副作用	食欲不振、嘔気、嘔吐、下痢	食欲不振、食欲減退、悪心、嘔吐、下痢	適用部位紅斑、適用部位さつ痒感、適用部位浮腫、適用部位皮膚剥脱、接触性皮膚炎、嘔吐、悪心、食欲不振	めまい、便秘、体重減少、頭痛

参考文献：各薬剤添付文書，各薬剤インタビューフォーム，薬局Vol.63 No.2，病気と薬パーフェクトBook2012

(鹿児島市医師会病院薬剤部 新上香奈子)